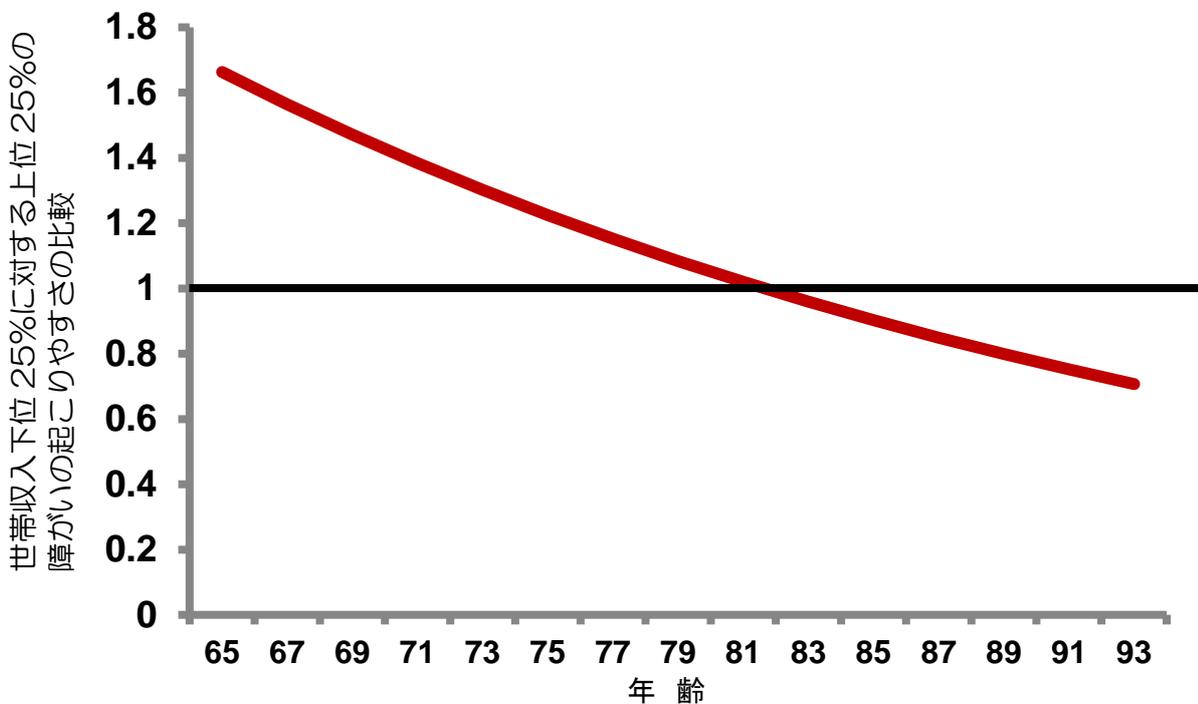


## コラム：日本では、高齢者の健康度は社会階層によって異なるの？

日本では、体の調子が悪くなったり、病気になった場合、誰でも、あまりお金のことを気にせず医療機関にかかることができるから、学歴や収入などの社会階層によって健康度に差があまりないのでは、という見方もあります。しかし、高齢になるに伴い健康の格差は縮小する傾向にあるものの、高齢者でも社会階層による健康格差がかなりあることが明らかになっています。

以下の図は、衣服の着脱、食事、トイレにいて用足しなど日常生活を自立して行うために必要な動作が十分にできない人の割合が、高齢者が属する世帯の収入によってどの程度違うかをみてみたものです。世帯収入が上位 25%の人と下位 25%の人とで、動作に障がいのある人の起こりやすさを障害のない人の起こりやすさとの比較で示してみると、65 歳では、世帯収入が下位 25%の人で下位 25%の人と比較して、障がいのある人の起こりやすさが 1.7 倍高いことがわかります。ただし、高齢者の中でも年齢が高くなると、格差は縮小し、80 歳位で逆転します。その理由は、社会階層が低い人では、健康状態が良くないことから比較的若い時期に死亡してしまう、すなわち健康上良好な人しか生存できないことになるため、格差が縮小するのはないかとみられております。

図：年齢別にみた障がいの起こりやすさの世帯収入上位 25%の下位 25%の比較：障害のない人の起こりやすさと対比



注) 1 よりも大きな値は、世帯収入が下位 25%の方が上位 25%の人よりも障がいの起こりやすさが高いことを意味している。